

ドル平泳法による水泳の指導

報告：渡邊英樹（泉州ブロック）

ネットでおもしろスクール開催！

5月23日、テレビ会議用アプリZOOMを使って、ネット上で奈良ブロック主催のおもしろ体育スクールが開かれました。当日12時50分、アプリを立ち上げ、IDとpassを入力します。初めてなので、不安いっぱいでしたが、スマホに牧野さんが映し出されホッとしました。佐々木さん、瀬見さん、片本さん、辻内さんと次々に写しだされます。「ああ、映った」と同じような安堵する声が聞かれます。1時になりいよいよ開催です。

ドル平の話

画面に、司会の古川さんが映り、今日の流れを説明してくれます。牧野さんから「ドル平泳法による水泳指導」の話があり、休憩をはさみ、質問に答えてくれるという流れで、午後2時には終了という非常に短期集中型の例会です。

牧野さんにバトンタッチされました。時間割は、(1)水の科学(2)ドル平とは(3)ドル平の指導過程の順です。この時は手元になかったのですが、同志会のHPにレジュメがアップされていました。(牧野さんが使用したたくさんの資料もアップされていますので参考にして下さい。)

まずは、(1)水の科学です。どのようにして浮力が生まれるのか、アルキメデスの原理「物体が水中で受ける浮力の大きさは、物体が押し出した水の重さに等しい」というところ

から入り、実際にビーカーいっぱいに入れた水を入れ、手首を入れ片方で300gの水があふれ出たことから両手では600gの浮力になることを調べられました。では、頭ではどうなるのか？と調べた様子を右の衝撃画像と共に説明してくれました。その後、重力の重心、浮力の浮心の関係の話など「おもしろ体育スクール」ならぬ、「おもしろ科学スクール」です。とはいえ、泳ぎのメカニズムを科学的に分析していくところはさすが同志会！そして、資料がとても分かりやすい。

しかし、ネット例会の弊害も起こります。なぜか「いらっしやいませ」という声が聞こえたり、テレビらしき音声が入ったりします。一番の問題点は、音声途切れたり、画面が固まることです。さらに、苦しみは続きます。



頭の浮力を調べ

スマホの小さい画面を凝視していたために、首が痛くなってきました。首を回したり、立ち上がって違う角度から画面を見たりして、首の筋肉をほぐさないと痛くて画面を見てられません。結局、「(2)ドル平とは」の所は、ほとんど頭に入りませんでした。(でも、ネットに上がっている資料は分かりやすくこれも必見です)首が復活してきたのは、(3)ドル平の指導過程ぐらいからです。

実際に指導されている動画を交えての話で、ドル平の泳法指導だけでなく、牧野さんがどのように学年の教師を組織して指導しているのかも感じられます。映像を見て参加者の方からも、「浅いプールがあっていいなあ」という書き込みも流れました。やはり、実際の動画があると子どもの動きがわかり、指導のイメージがわきます。(動画こそ上がっていませんが、「お話水泳」がイメージしやすく、明日からすぐに使える、伏し浮きまでの道筋がスモールステップで構成されている体育ノートが会員のページにアップされています。)

質問コーナー

続いて 10 分の休憩をはさみ質問コーナーですが、妙な沈黙が流れます。ネットだとその場の空気感がわからず、口火を切るのはなかなか勇気がいるもので、ぎこちなさがあります。それでも、①コロナの影響で実技を伴う水泳ができない状況で、座学で水泳を学習する場合どんなことが考えられるのかということ②お話水泳を初参加者にもわかるように

詳しく解説してほしいという質問が出ました。

①のお答えは、それこそ今日の話をして欲しいとのこと(言われてみれば、その通り!)

②は、息継ぎのリズムを習得することも水泳指導では大事だけれど、教え込んでの習得は、「愛のないドル平指導」であり、もっと子どもたちが親しみをことができるようにしようということで、お話マットをイメージして考えられた教材だそうです。(さすが同志会、ここにも同志会イズムが感じられます。)

コロナのせいで様々な制限がある中、牧野先生のポイント押さえた話と分かりやすい資料だったり、ネットなので全国からの参加者も全員では 30 名を超え、非常に実りのある例会だったと思います。ここに至った発想や「やってみようという」スピリッツはさすが大阪支部であり、実現させた事務的緻密さも支部の力量や厚みを感じます。とはいえ、少し話は飛躍するのですが、この — 5 — 流れが公教育に流れ込み、ネット授業へ拍車がかかることがないようにしたいものです。でも、例会としては非常におもしろい例会でした。奈良ブロックの皆さんありがとうございました。



※参加者 30 名 2020.5.23 オンライン開催